

学 科	鍼灸マッサージ科	学 年	1年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有	
授業科目名	東洋医学概論 I			担当教員	天野 陽介			
授業の方法	講義、演習			単位数	2単位	時間数	60時間	
学修内容	東洋の自然哲学、東洋医学における人体の構造と機能の考え方、病理観などの基本的知識を学ぶ。							
授業の到達目標	2) 医学的知識 4. 東洋医学の自然哲学・健康観・病理観について理解する。							
授業計画	前 期			後 期				
	回	テーマ			回	テーマ		
	1	第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の沿革			1	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 I. 蔵象学説		
	2	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方			2	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(六腑)		
	3	第1章 東洋医学の特徴 第3節 東洋医学的治療 第4節 日本の東洋医学の現状			3	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 IV. 六腑の協調関係 II. 五臓とその機能に関連した領域(脾)		
	4	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説			4	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(肝心)		
	5	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説			5	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(肺腎)		
	6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)			6	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(心)		
	7	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)			7	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関連した領域(三焦)		
	8	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 II. 神			8	中間試験		
	9	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 III. 人体における陰陽			9	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 III. 五臓の相互関係 V. 全身の気機		
	10	中間試験			10	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 I. 病因		
	11	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の基本内容			11	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 I. 病因		
	12	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 I. 蔵象学説			12	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 I. 病因		
	13	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 II. 東洋医学における五行学説の運用			13	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 I. 病因		
	14	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 II. 東洋医学における五行学説の運用			14	第2章 生理と病理 第4節 病因病機 II. 病機		
15	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 II. 東洋医学における五行学説の運用			15	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 II. 東洋医学における五行学説の運用			
評価基準	評価:90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)							
評価方法	中間試験40%、期末試験60%の割合で評価			実務経歴	北里大学東洋医学総合研究所に上級研究員として勤務し、東洋医学を研究。東洋医学関連学会(日本東洋医学会、全日本鍼灸学会、日本伝統鍼灸学会、日本医史学会など)の委員として活動。			
履修上の注意	配布資料はページ番号順にバインダーにファイルしてください。			授業時間外の学習	復習を大切にし、分からない場合は早めに聞くようにしましょう。			
使用教材	『新版 東洋医学概論』、東洋療法学校協会[編]			連絡先	担当教員出校日(金曜日)に教務課まで連絡ください。			